

2015年12月期 第3四半期 決算説明資料

カルナバイオサイエンス株式会社



証券コード : 4572

- CDC7/ASKキナーゼ阻害薬に係る中国特許庁からの特許査定通知受領（8月）
- 大阪府立大学と構造科学的手法を利用した新しい医薬品設計手法の開発を目的とした共同研究契約を締結（8月）
- 広島大学原爆放射線医科学研究所と慢性骨髄性白血病（CML）のがん幹細胞を標的とした治療薬開発に関する共同研究契約を締結（8月）
- 神戸大学と構造科学的プラットフォームを利用した新しい医薬品設計手法の開発を目的とした共同研究契約を締結（8月）

10月以降

- 愛媛大学との新規治療標的分子の探索とその臨床応用を目的とした共同研究契約締結（10月）
- 子会社ProbeXが東京大学と分子イメージングに応用可能な新規発光分子プローブ法に関する技術開発の共同研究契約を締結（10月）

第3四半期 連結経営成績の概況



- ✓売上高は、対前年同期比 177.3%増（対前期比816百万円増）
- ✓営業損益は、売上増、販管費圧縮等により 584百万円の黒字（対前期比995百万円の改善）
- ✓当期純損益は、営業損益の改善等により 572百万円の黒字（対前期比962百万円の改善）

（単位：百万円）

	売上高	営業損益	経常損益	当期純損益
2015年12月期第3四半期実績 (a)	1,277	584	605	572
2014年12月期第3四半期実績 (b)	460	△411	△388	△390
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+816	+995	+994	+962
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+177.3%	—	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てして表示しております。

(注2) 対前年同期増減率における、「営業損益」「経常損益」「当期純損益」の値は前年同期においてそれぞれ損失を計上しているため数値を表示しておりません。

第3四半期 事業別業績の概況



(単位：百万円)

	売上高			営業損益		
	創薬支援事業	創薬事業	計	創薬支援事業	創薬事業	計
2015年12月期 第3四半期実績 (a)	662	614	1,277	307	277	584
2014年12月期 第3四半期実績 (b)	460	—	460	51	△462	△411
対前年同期比 (c)=(a)-(b)	+201	+614	+816	+255	+740	+995
対前年同期増減率 (d)=(c)/(b)	+43.8%	—	+177.3%	+498.3%	—	—
2015年12月期 通期計画 (d)	917	614	1,532	398	△26	372
通期計画に対する 進捗率 (a)/(d)	72.2%	100%	83.3%	77.1%	—	—

(注1) 百万円未満は切り捨てて表示しております。

(注2) 営業損益における創薬事業、全社の対前年同期増減率および通期計画に対する進捗率は、創薬事業の前年同期実績および計画値がマイナスのため表示しておりません。

(注3) 創薬支援事業の2015年12月期通期計画値は、2015年7月28日発表の通期修正計画に基づいております。

バランスシート状況 (連結)



(単位：百万円)

	2015年12月期 第3四半期末	2014年12月末	増減額	増減理由
流動資産	2,050	907	+1,143	
現金及び預金	1,830	626	+1,204	
その他	220	280	△60	売掛金の減少等
固定資産	318	313	+4	クリスタルゲノミクス社株式評価増、有形固定資産減等
資産合計	2,369	1,221	+1,147	
流動負債	173	195	△22	1年内返済予定長期借入金+30、未払金△74、預り金△23、未払法人税等+34等
固定負債	237	195	+41	長期借入金+40等
負債合計	410	391	+19	
純資産合計	1,958	830	+1,128	資本金及び資本剰余金+542、利益剰余金+572等
負債・純資産合計	2,369	1,221	+1,147	

自己資本比率	82.3%	67.2%
一株当たり純資産	219.15円	98.69円
PBR(株価純資産倍率)	10.11倍	7.64倍
(参考) 当社株価	2,215円	754円

(注) 当社株価はJASDAQグロースにおける終値に基づいております。

- 小野薬品工業株式会社との契約に基づく大規模受託試験を完遂する。
- ProbeXでは、10月に顧客要望に基づく安定発現細胞株の第1号売上を計上。実績を基に、スプリットルシフェラーゼ技術の応用に基づく創薬支援ビジネスの拡大を図る。
- キナーゼに関する創薬基盤技術に基づく大規模受託試験の追加案件獲得を目指す。
- 顧客特注案件が増加しており、その売上拡大を目指す。
- 北米地域における売上拡大に引き続き取り組む。

<がん領域（前臨床パイプライン）>

- NCB-0846: TNIKキナーゼ阻害薬
 - ◆ 国立がん研究センターとの共同研究テーマ
 - ◆ 日本医療研究開発機構(AMED)が実施している創薬総合支援事業「創薬ブースター」の支援課題として前臨床試験が進行中
- AS-141: CDC7/ASKキナーゼ阻害薬
 - ◆ 自社テーマ
 - ◆ GLP試験等を含む前臨床試験を実施中。さらに、様々ながん種に対する薬効薬理試験も実施中

<がん領域（次世代パイプライン）>

- NCB-0594: TNIKキナーゼ阻害薬（バックアップ化合物）
 - ◆ 国立がん研究センターとの共同研究テーマ
 - ◆ 前臨床試験にステージアップするために様々な試験を実施中
- キナーゼ阻害薬：白血病がん幹細胞を標的としたキナーゼ阻害薬
 - ◆ 広島大学原爆放射線医科学研究所との共同研究テーマ
 - ◆ リード化合物の最適化を推進中

<免疫炎症領域（前臨床パイプライン）>

- キナーゼ阻害薬：免疫疾患を標的としたキナーゼ阻害薬
 - ◆ ヤンセンバイオテック社に導出
 - ◆ 前臨床試験が進行中

<免疫炎症領域（次世代パイプライン）>

- キナーゼ阻害薬：免疫炎症疾患を標的としたキナーゼ阻害薬
 - ◆ 自社テーマ
 - ◆ リード化合物の創出段階

<その他の疾患領域（次世代パイプライン）>

- 新規マラリア治療薬：マラリアキナーゼを標的としたキナーゼ阻害薬
 - ◆ 北里大学北里生命科学研究所との共同研究
 - ◆ 「A-STEP」の補助金事業として、リード化合物の最適化研究を実施中
- キナーゼ阻害薬：神経変性疾患を標的としたキナーゼ阻害薬
 - ◆ 自社テーマ
 - ◆ リード化合物の最適化研究を実施中
- キナーゼ阻害薬：貧血を標的としたキナーゼ阻害薬
 - ◆ 自社テーマ
 - ◆ リード化合物の最適化研究を実施中

<その他>

- ラクオリア創薬(株)との共同研究は、一定の成果を得たため共同研究を終了

<次世代パイプライン構築のための創薬基盤技術の強化>

- 従来にない新しい創薬技術の強化を目的としたアカデミアとの共同研究分野拡大が着々と進行中
 - 大阪府立大学と、アロステリック阻害剤の効率的な創出方法に関する共同研究を開始。特定のキナーゼに対して極めて高い選択性を有する薬剤の最適化研究の期間が飛躍的に短縮されることを目指す。
 - 神戸大学と、医薬品の創製の出発点となりうるシード化合物を合理的かつ効率的に創出する新しい手法の確立を目指し、共同研究を開始。創薬の初期段階においてHTS（ハイスループット・スクリーニング）等に要する期間が飛躍的に短縮されることを目指す。
 - 愛媛大学と、ある特定のタンパク質に関する新たな機能や多様性の意義の解析および当該タンパク質の機能欠失が引き起こす病態の解明に関する共同研究契約を締結。新たな創薬ターゲットの同定を目指す（10月締結）。
 - 子会社ProbeXが、東京大学と、スプリットルシフェラーゼ技術をベースとした様々な生体分子の相互作用に関する新規分子イメージングプローブの開発に関する共同研究を開始。これまでスクリーニングが困難であった標的に対する創薬研究を可能にでき、創薬効率の飛躍的な向上を目指す（10月締結）。

<導出活動>

- ヤンセン社への導出実績・ノウハウを生かし、複数の製薬企業と導出に関する交渉を行なっている。引き続き、創薬パイプラインの導出活動に積極的に取り組む。

今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



カルナ《CARNA》は、ローマ神話に登場する人間の健康を守る女神で、cardiac（心臓）の語源とも言われています。バイオサイエンス《BIOSCIENCES》は、生物科学と言われ、生物学（Biology）と生命科学（Life Science）から、つくられた言葉です。「生命科学の世紀」とも言われる21世紀に向けて、カルナバイオサイエンス社とともに新しい女神“カルナ”が誕生しました

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078) 302-7075 Fax (078) 302-6665

<http://www.carnabio.com/>

ir-team@carnabio.com

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。